

年 組 名前

2021年8月2日付市民版他



触れるとけがするぜ

ハリセンボン


普段はのっぺりしてるとは、水を飲み込むと大変身だ。風船みたいに膨らんで、体中の針がピシッと立つぜ。ほらほら、おいらに触れるとけがするぜ。

いや、海の中にはでっかくて、恐ろしい魚もけっこういるだろ。サメ君とかイルカ君とかおっかねーし、こっちも身を守るために必死なんだ。

ただ、膨らんだところは、飼育員さんも年に数回しか見られないんだ。居合わせたらラッキーと思わないとダメだぜ。

あ、この針、本当は千本もないらしいぜ。だいたい三百五十本くらいだ。誰だ？ うそついたのは、ハリセンボン飲まずぜ。

写真・桜井 泰
文・西田直晃

 ハリセンボン フグ目ハリセンボン科。体長30〜40センチほど。全世界の熱帯から温帯に広く分布する。皮膚が厚く、体表にうろこが変化したたぐさの鋭いトゲを持つ。トゲは普段は寝ており、体を膨らませた際に立つが、その際は動けなくなる。



※ ^{おとな}大人の^{ひと}人に^{きじ}記事^よを読^{かんが}んでもら^{かんが}って考^{かんが}えま^{かんが}しょう。

とい
問1：ハリセンボンは、どうやって^{はり}針^たを立^たたせるのでしょうか。

とい
問2：ハリセンボンが^{からだじゅう}体^{なか}中の^{はり}針^たを立^たたせるのは、^{さかな}どんな^み魚^みから^み身^みを守る^{まも}ため^{まも}でしょうか。^{ふた}二^かつ^か書^かきま^かしょう。

問3：ハリセンボンは、^{じっさい}実^{なんぼん}際^{なんぼん}には何^{なんぼん}本^{なんぼん}く^{なんぼん}ら^{なんぼん}いの^{はり}針^たを立^たたせて^たいる^たの^たで^たしょう。

くらい

【活用にあって】

ハリセンボンのお話です。いつもの記事とは違い、ハリセンボンになりきって書かれています。おもしろい書き方ですね。

最後の一文「ハリセンボン飲ますぜ。」の意味は難しいですね。「指きりげんまん うそついたら針千本飲ます」というわらべ歌を思い出しましょう。だじゃれなんですね。

工藤直子さんの作品に、『のはらうた』（童話屋）という詩集があります。うさぎ、めだか、かたつむり、たんぽぽ、のぎくなど、動物や植物などになりきった詩でいっぱいです。のはらで楽しく遊ぶことができます。

かいとうれい
解答例

とい みず の こ
問1：水を飲み込む

問2：サメ（くん）、イルカ（君）

問3：350本
ぽん